

第二一五回ペン川柳会

令和四年四月二十五日

お題 「嘆・嘆く」

■ 西川 (酔雅)  
すいが

嘆いても仕方ないかとまた嘆く  
八十路入り嘆く言葉も先細り

■ 細谷 (損得)  
そんとく

短足は生まれ付きだと嘆息し  
プーチンのあまりの非道さに感嘆し

■ 三春 (火酒)  
ウオツカ

嘆くふりガッポリニンマリ武器商人  
コオロギの助命嘆願やんちゃっ子

■ 安藤 (晃二)  
てるつぐ

疫と役嘆きの空に鯉泳ぐ

ローマ襲う嘆きの声や壁に沁み

■ 曾山 (酩帝)  
めいてい

八十路入り嘆き節だけ自慢出来  
初恋は「嘆きの天使」デートトリヒ

■ 八木 (明迷)  
めいめい

オレ詐欺に貧乏嘆き退治する  
朝帰り嘆きのドアは開かれず

■ 塚田 (拿々)  
だだ

またしても選にもれたと嘆き節  
嘆けども過去は戻らぬ前を向け

■ 松谷 (零門)  
れいもん

虎党は嘆きながらも応援す  
我が愛車車検5回と妻嘆く

■ 山縣 (安兵衛)  
やすべえ

ウクライナこれ最悪の嘆異抄  
嘆く止めニールンベルグにご招待

■ 大野 (だし)

コロナ禍も物価で霞み嘆き節  
ウクライナ嘆いてみても物価高

■ 稲宮 (井波)  
いなみ

罪と罰読み返しなよ嘆かわし  
歎異抄今日は読もうと積読だ

世話人 塚田 實 (拿々)  
だだ